



申
2
号

2023年度年末手当に関する申し入れ 第3回交渉「回答を受けて議論」をおこなう！その5

- (組合) 「社員一人ひとりが具体的な目標を設定する「個人目標・自己評価シート」に基づく、安全考勤の進化と、より高品質なサービスクオリティを創り上げるための創意と発意により、社員一人ひとりのさらなる成長を基盤に、会社の持続的な成長をともに創っていきましょう。」と書いてあるが、それについて深度化しておらず、社員はその目的と手段が理解できていない。
- (会社) 何をもって評価するというを明確にするために、自己申告書とは別に「個人目標・自己評価シート」を作成した。自分には頑張ったことを、管理者が平等に評価するためのものである。
- (組合) 休日出勤、IT点呼や効率化施策に協力、一方において身銭を切って効率施策に協力してきたことに関して努力還元分が含まれていると言われているだろうけど、見づらい。更なるチャレンジし続けることは無限大であり、具体的にしていっていか見いだせない。
- (会社) 趣旨としてはそのようなことにならないようにするものであり、自分では頑張ったけど上に評価されていないという評価にならないよう、目標書いて達成できたかどうかのシートである。
- (組合) 自己申告書や個人目標・自己評価シートに書いたものを無駄にしてほしくない。以前の管理者はきちんと読んでいない管理者もいた。
- (会社) 無駄にはしない。もしそのようなことがあれば言ってもらいたい。本社としても管理者にきちんと指導をする。
- (組合) 会社は変わってきたと思うが、きちんと社員に対して平等に評価してもらいたい。頑張った社員が報われる職場環境にしていきたい。
- (会社) 自己申告書、個人目標・自己評価シートが新しくなったあとに支店長にレクチャーしている。
- (組合) 今回の年末手当の回答は、組合員の顔、家族の顔を思い浮かべると席上で妥結することは到底出来ない。回答したものを妥結してなくても職場に貼るという性質は、前回の第2回交渉でも議論したように交渉の在り方に疑問がある。
- (会社) 見解の相違になってしまうが、交渉して決めていく認識である。そのような認識でなければそのようになってもらう努力をしていく。
- (組合) 繰り返になってしまうが、もっと積み上げられなかったのかという認識である。席上妥結できる回答ではないため持ち帰り議論し検討する。15日に政労使会議が官邸で開かれた。その中で岸田総理は「可処分所得をあげていくために協力をお願いしたい」と提起されたようだ。2024年賃金引上げの議論に繋がっていくことだが、当社も同じ認識に立つべきである。下期、年末年始輸送・春輸送、そして通年黒字達成に向けて協力していく姿勢は変わらない。その点を改めて経営陣にしっかりと伝えて共有してもらいたい。

**会社は現場で奮闘してきた組合員の
努力を正当に評価し誠実な回答と還元をすべきだ！**